

# 地図情報等の整備による被害低減対策【国土交通省】

## 施策概要

地形分類情報や標高データ等の災害リスク情報に加え、空中写真や詳細な地図情報の事前整備を実施するほか、測量用航空機による被災状況把握能力の強化等により、被災状況把握や救助活動等の遅れを防止する

## 効果

地形分類情報等を整備することで、住民が身のまわりの災害リスクを把握でき、防災意識の向上や適切な避難行動に貢献



国土交通省  
国土地理院



—



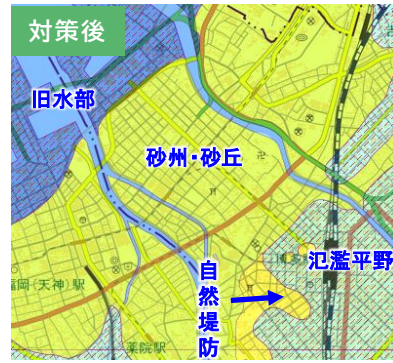
地形分類情報の整備

## 全国的な対策と効果

**対策** 人口が集中しているものの地形分類情報が未整備の地域12,400km<sup>2</sup>に対し整備を実施  
令和6年度末時点で約**9,600km<sup>2</sup>**が整備済み



地形分類情報整備前  
災害リスクの高い場所が分からない



地形分類情報整備後  
災害リスクの高い場所が明らかに

### 旧水部

過去の地形図などから水部であったと確認できる土地で、地盤が軟弱なため、液状化のリスクが大きい。また、沿岸部では高潮に注意が必要。

### 氾濫平野

起伏が小さく、低くて平坦な土地。河川の氾濫に注意する必要がある。また、地震の際にやや揺れやすく、液状化のリスクがある。

### 砂州・砂丘

主に現在や昔の海岸・湖岸・河岸沿いにあり、周囲より高い砂礫質な土地で、縁辺部では強い地震によって液状化しやすい。

### 自然堤防

現在や昔の河川に沿って細長く分布し、周囲より0.5～数メートル高い土地。洪水に対しては比較的安全だが、大規模な洪水では浸水することがある。

## 5か年加速化対策の効果

### 地域防災力の向上

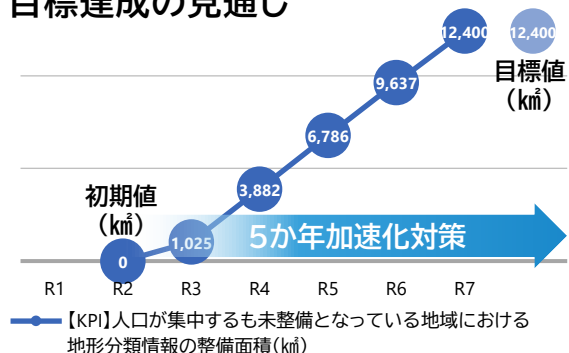
住民による身のまわりの災害リスクの把握や、住民の防災意識の向上、適切な避難行動の確保に貢献しています。また、地方公共団体における各種ハザードマップの作成や防災・減災対策の基礎資料として活用されています。これらによって、地域防災力の向上に貢献しています。

### ■ 予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
-	50億円	30億円
R6	R7	累計
27億円	22億円	129億円

※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

### ■ 目標達成の見通し



【KPI】人口が集中するも未整備となっている地域における地形分類情報の整備面積 (km<sup>2</sup>)

(1)

人命・財産の被害最小化

1 激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策

(2)

交通・ライフラインの維持

2

インフラの老朽化対策

(1)

施策のデジタル化

3

国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進

(2)

災害関連情報の高度化